

東大寺圖書館藏法華義疏紙背訓註

小林芳規

① 如焚石練金令金清淨

夜叉 祢夜俱

② 初有十句本一明妙音

萬乃之五  
諮彼仏欲來之意

③ 此云鸚鵡此寶似鸚鵡

久七婆之  
鳥嘖而赤色

④ 七宗盧樹一多羅樹去

地七刃也

山惠 七尺山惠曾

⑤ 又為四類初四是豪

他可久

梁身次四受仏戒身

音計一及勝也

⑥ 彼為淨土故此仏无暄

阿之

涼也

佐牟之

⑦ 其人是東方不眴世界

音須印及

普賢如來一生補處大士

⑧ 次偏袒右肩者外書云

勞而无袒

加他奴义

⑨ 其猶彼國露頂為礼此

去冠帽為恭敬也

音毛有反川加之布利

⑩ 今殷而不散心既冥漠

音礼牟川乎佐牟

并久良之

⑪ 令一切衆生昉而学之

阿加之豆

⑫ 經幹之能故稱為男

己波义川与之

⑬ 三救風難四刑戮難

音吕久反并乃ち支流

⑭ 若身居火内方復稱名

世婆

則已受其弊

乃氣五牟 比比字

⑮ 會稽高士謝敷字慶緒

阿佐奈

⑯ 便誦念觀音四隣蕩盡

川良氣

其舍猶存

⑰ 隣人失火

成奈川

⑱ 以炬火擲其屋上三擲

奈具礼

止毛 三 滅

①9 今言黑風者一解云此

風起時前有黑雲故言

尔之

黑風

②0 自閑已西稱船閑已東

尔彼

已東尔彼

謂之舫

②1 七難時短急不暇礼拜

伊止麻

供養亦不暇斂心靜攝

乎佐米

但得稱名願我未來作

仏字觀世音觀世音三

美他比

稱我名不往救者不取

妙色身

②2 是鬼神如金光明散

曾止伊不彼

奈利

脂々大々将々

音旨伊反

②3 是韋陀天毗紐天也

二天同天也名別耳

②4 臣身中有四初示豪傑

他加又須具礼

二示四衆身

②5 出家不拘小道

加々流

②6 呼召此名

并与夫止支尔

②7 如坏瓶以火烧方堪持

水 奈万之

②8 三昧與実相合出

可奈不

②9 多髮

此云被髮

存疑。隣行に③0の「滴」あり。その注記とすれば、ここだけが当該漢字の右傍に付したことにする

③0 衆生心中有七滴皓水

阿万支

③2 能迴父邪見使發心得

記

音利伊反(注別行「藥」の付記)

③1 正法花云華藥剖妙莊

音岐伊反又計有反

(注別行「鬼」の付記)

嚴至本事

③3 八菩薩王辭退又開四

句

佐里万可流

③4 此二菩薩又令其終

与久世里(朱書)

③5 亞聖稱賢

ツ具

③6 一明菩薩羽儀

并与曾保比

③7 光照象項上

于奈自

③8 金、案、四面有七安

ツ支江

柱

③⑨ 象即開口諸玉女鼓樂弦歌其聲微妙

阿久止支尔

ウミ美乃知樂之 已止比支乃他乃他布

④⑩ 身著淨潔衣

支良ミミ文

④⑪ 辞退

佐流又伊奈倫

補四句一者 東綏戒急

東者成仙相也或相生天人所也

右は本誌第七輯の小稿「和訓索引」について、

東大寺図書館蔵にかゝる法華義疏(卷十二)

その各語の該当漢字を含む本文を抄出し、併せて新たに音注等をも補加し、かつ先稿の誤を訂正しようとしたものである。

一卷の紙背に見える訓注である。蔵本の付記によると、全長三丈四尺二寸、紙数十九枚で、一紙の長さ一尺八寸三分、縦の長さ九寸五分で墨界を有し、軸は後より補っている。

(頭部の○内の数字は私意により付したものである)

法華義疏の本文は卷首を欠き、平安初期の書

此の資料については、中田祝夫博士「古點本の國語學的研究(總論篇)」に紹介があるが、

字と見られ、本文中に朱の句読点がある。紙

背の訓注は墨の万葉仮名(一例のみ朱書)で

記され、別に反切による字音注記などが散見

する。その体裁は、石山寺・天理図書館蔵の

金剛般若經集驗記に似て、表の本文の漢字の

訓釈等をその裏面に記したもので、その位置

は透かせて見てすべて該当漢字の左傍に当

る。ただかの金剛般若經集驗記の裏訓は略

体仮名が使用され、本書は真仮名本位であ

る。これは思うに、前者が表面の傍訓を後に

整理して裏面に誌したのに対して、本書の

訓注には、当初より、片仮名が漢文の傍訓を

離れて文字として独立する以前の音義書や

字書所用の真仮名と等しく、文字として独

立したところのこの真仮名を用いたためであ

らう。この紙背には別に

(墨筆)「延長六年潤九月一日始し

の識語を持つ三性義私記なる仮名交り文の論

義の草稿があり、この筆が訓注を避けたり、

その上に重なったりしている点からも、訓注

の書字はそれ以前であることが知られる。

此の資料は昭和二十七年八月の調査になるが、

此の度、中田博士から別に調査された貴重

資料を貸与され、旧稿に大きく手を加えるこ

とができ、また小松英雄は御注意も頂いて

成った。記して厚志に深謝申上げる。